

青森県から北海道へ

氏名 船水 紀明

青森県立大間高等学校 → 北海道函館西高等学校

(期間：令和4年4月1日～令和6年3月31日)

1 青森県の教育

- 持続可能な地域づくり「あおもり創造学」プロジェクト事業「あおもり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム
 - ・県教育委員会では、郷土に対する愛着や誇り、地域への貢献意欲の醸成を図り、県内定着を促進し、持続可能な青森県を創造できる人財を育成することを目的に、全ての県立高等学校の全生徒が、高校生活の中で、総合的な探究の時間や課題研究等において、地域資源や人財を活用して、高校の所在地及び自身の居住地等について理解を深める学習「あおもり創造学」に取り組むため、標記事業を実施している。
- キャリア・パスポート
 - ・このキャリア・パスポートは、小・中・高等学校の12年間を見通し、系統的・継続的に活用することによって、児童生徒が自らのキャリア発達を振り返り、将来の夢の実現に向けた意欲の喚起や持続、人生設計に役立てるものである。
 - ・また、教師は児童生徒のキャリア学習の足跡を知る資料となり、学年や校種が変わっても継続した指導に結び付けることができるものである。

2 学校や地域の特色ある教育活動

- グラデュエーション・ポリシー提示
 - ・学校経営方針に学校教育目標として次の5つの力「自己肯定力・実行する力・考え抜く力・協働する力・郷土を愛する力」をルーブリック形式で提示している。教育活動の内容や身に付けてほしい力をグラデュエーション・ポリシーとして明示することで、生徒は自身の現在の能力を把握することにつながり、教師は手立てを考察することにつながっている。
- 近隣町村からの支援
 - ・近隣町村の首長、職員、地域住民からの支援が手厚く、特に教育環境の整備や総合的な探究の時間へ積極的な協力があげられる。また、小規模地域であるため、町村立の小中学校やスクールカウンセラーとの情報共有が定期的に、必要な場合は随時情報交換を行うことができるため、生徒の家庭環境や人間関係の背景を理解しやすい。

3 私が取り組んできた実践

○ 青森県立大間高等学校

- ・教育活動の整理

人事異動の周期が早いため、それぞれの活動が独立して行われていた。そこで、年間計画の見直しや総合的な探究の時間の体系付けに取り組み、3年間を見通した教育活動への意識付けを行った。また、校内規程を今の教育環境に即した内容とした。

- ・地域と学校教育の関連付け

「あおもり創造学」の開始に先立ち、授業や総合的な探究の時間に地域の活動や県の事業を取り入れた。波及効果として、若手の教員が自由に授業を展開できる雰囲気醸成することができた。

○ 北海道函館西高等学校

- ・新学習指導要領の理解

新学習指導要領に基づき、評価基準をルーブリック形式で作成し、生徒へ公表した。生徒は「学ぶ意義」と「学ぶ方法」を理解し、自身は授業内容の精査にもつながった。

- ・各種研究大会・授業研究セミナーへの参加

北海道公民教育学会、地理歴史・公民科教育研究協議会、S-TEAM 教育推進事業授業研究セミナー等へ積極的に参加し、技量向上を図っている。

- ・地域理解

北海道や函館市は高大連携に加えて、市民規模でもさまざまな活動が行われている。そこで自身も「まちぐらし共創サロン」等へ積極的に参加し、地域の実情把握と学校教育への活用を常に考察している。

- ・北海道陸上競技協会への参加

公認審判員の経験を活用し、市規模から全道規模といった各種競技会で審判を行っている。